

1900

本当はいらぬもの

便やないものはなくする

アノと今行ない

アノ「アノ」ミレン「藤のペン」

たまにものばかり

すてぬやうに

だれかとまうてまうてない

でも

便りなくするとは見えてくる

不甲斐もや知分はか有りしていい

手紙「日記」着る手「足」有と

知命して方々まわしていい

たまにものおやうに

子供の暇をと「ミ」も「作」ていい

ミ「ガ」ミ「レ」

便りなくするは「は」をりし「が」

近くと洋裁店が来て「た」んだりし「た」ころ

だ「か」むし「た」

ア「は」婦人が「て」おけふ

い「ら」ぬ

オレカトハ 足ぶくの便りていた

まよ子元と近おずかんの かの道は十字架と

と賛美歌をひいていた

いつごろだろう

あざとつたことば 遠いかならで

わかろうまい ことばかり

それと存つかしんでも仕方ない

過去のことは 着こなさるうらた

たやだ だめだ

行く存りともいい

いう存りかう 今も存りた

必要存り以外は どんく ありさ ほかグケる

26 23
8/10